

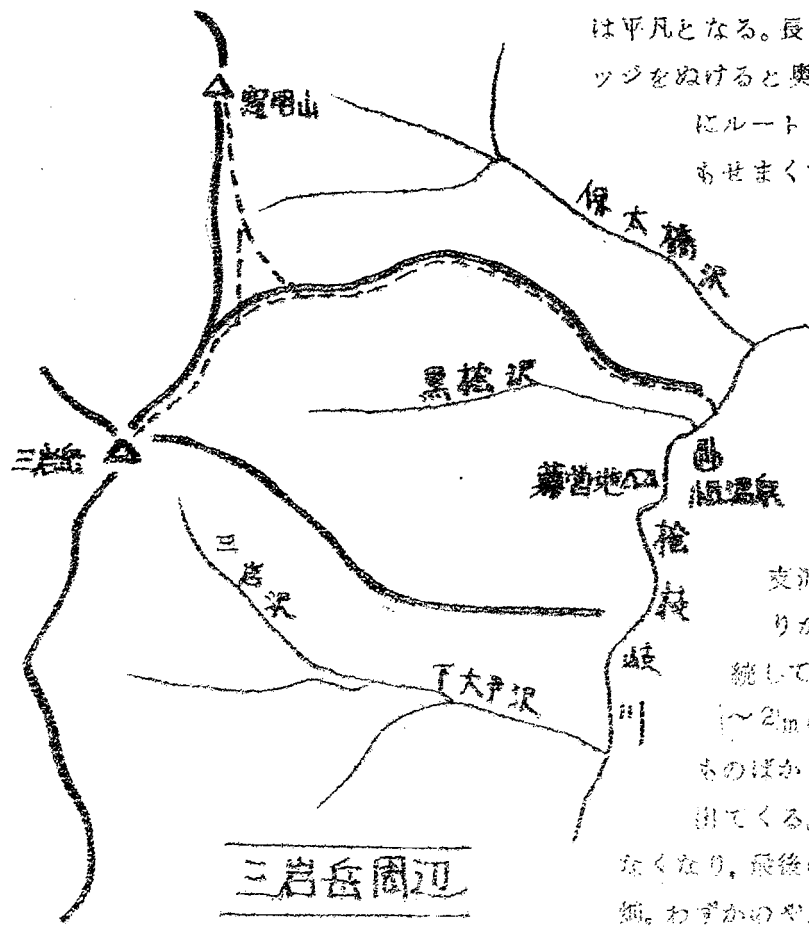
保太橋沢

(1978年7月28日)

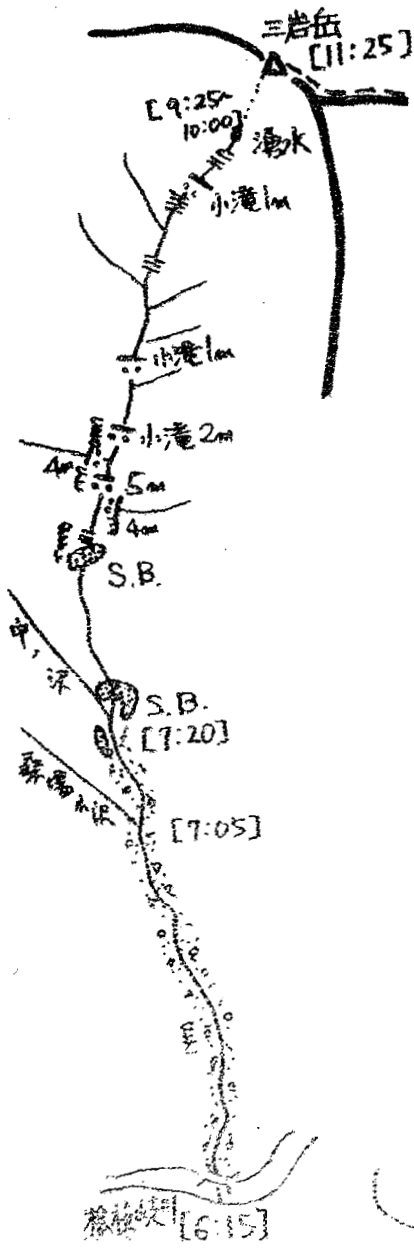
L西和文 渡辺京子

2つのパーティに別れて出発。私達は保太橋沢に入る。最初から廊下が続き、壁が高く沢に下るのにも苦労した。右に左にへつりF1につく。10m。私がビビったためザイル使用。沢そのものは次々に滝、小滝がでてきて、変化に富んでいてとてもおもしろい。スノーブリッジをくぐると40m3段の滝である。右側からとりつき、下段の落口を横切って左側に移る。上段はまた右側(左岸)を直登。高度感があってなかなかおもしろい。20m滝2つを更に越えると沢が平凡になる。再びスノーブリッジをくぐると二俣である。左俣に入る。奥から冷気がくるので雪渓があると見当をつけて進むと、案のじょう大きな雪渓。2本の支沢との合流点をうめつくしている。雪渓の上を歩き、倒木を足場にして沢に下る。連続する2つの4m滝を越えるとあと

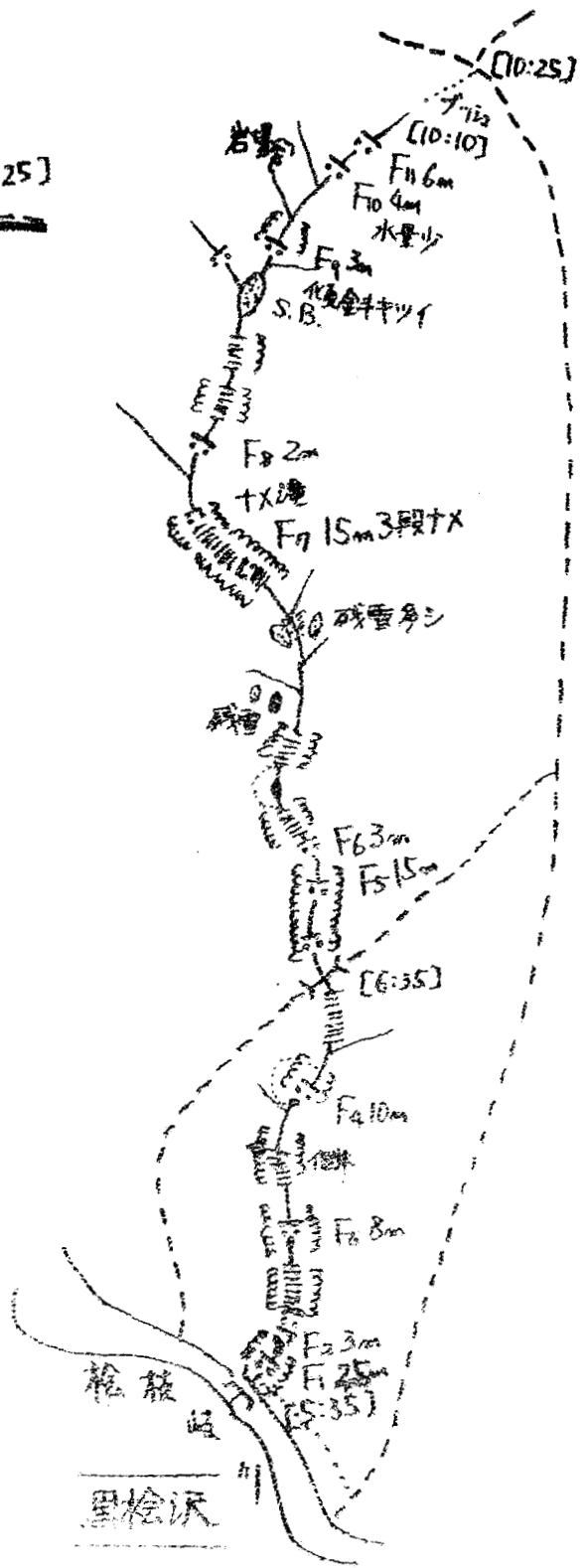
は平凡となる。長いスノーブリッジをぬけると奥の二俣。左俣にルートをとる。沢幅もせまくなりもう終わりかと思っていたら、左に



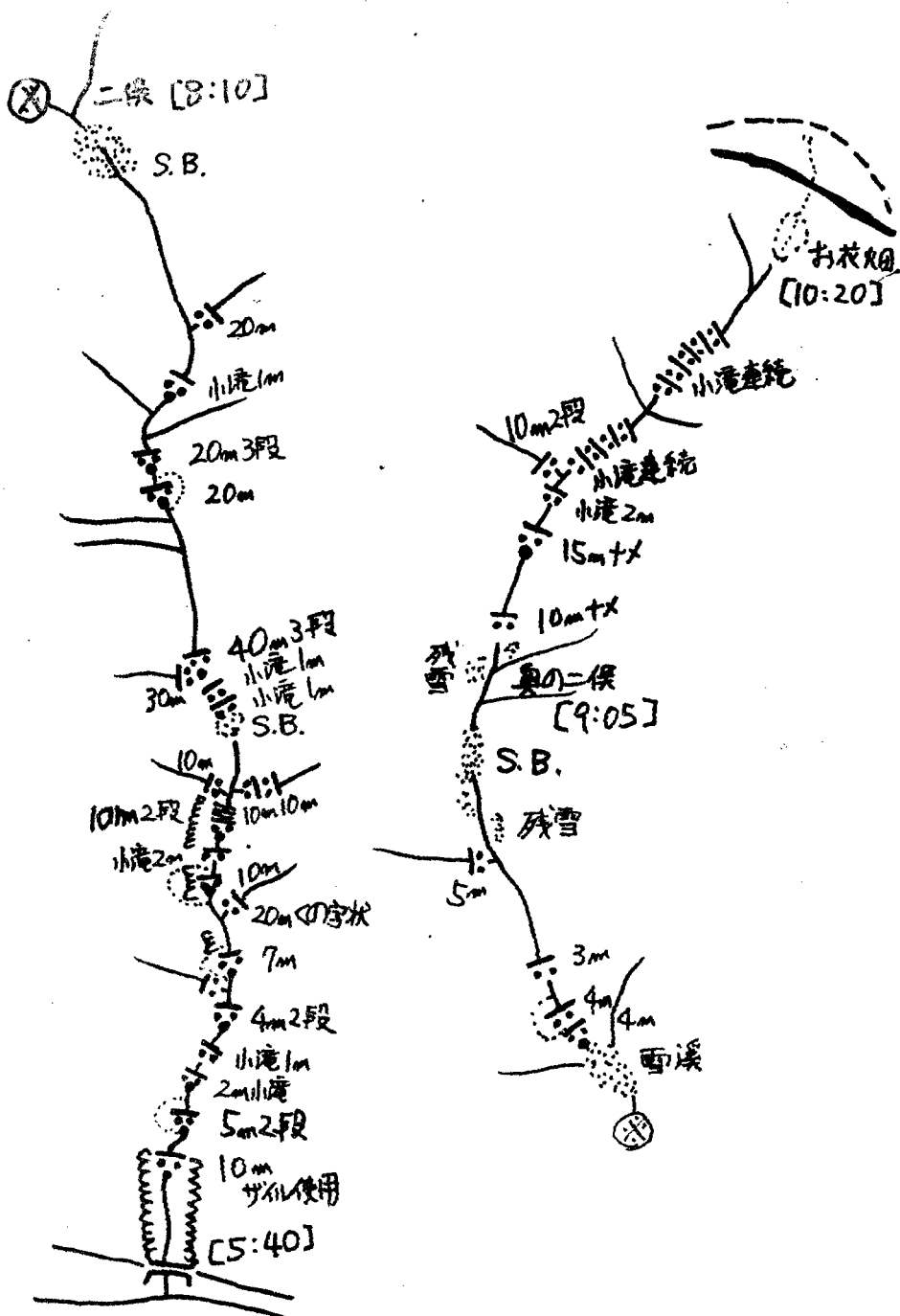
支沢をみるあたりから小滝が連続して出てきた。1〜2mほどの小さなものばかりだが次々に出てくる。やがて水もなくなり、最後は大きなお花畑。わずかのやぶこぎで連続



三岩沢



三岩沢



保太橋沢

黒檜沢右俣

(1978年7月30日)

L 菅野喜吉 宍戸典子 宍戸幸務

橋からは取付が困難なので、登山道ぞいに少し入った地点から取付き、5時35分
遡行開始。岩肌は黒く岩質は固くしっかりしているが、水ごけがついていてヌラヌラ
しているので、油断するとすべる。5分程でF1に出会う。2.5m程の小さな滝でわけ
なく通過する。5分たらずでF2 3mに会う。このあたりからきれいなナメが現われ、
兩岸は岩がつきあげていてローカ状になっている。まもなく、F3 8mが現われる。ホ
ールドもスタンスも豊富でしっかりしているのでわけなく直登した。するとすぐに、
沢のせばまっている所に、ブナの倒木が に渡したかのように横たわっている。宍戸
兄妹はなんなく渡り終えたが、私は足元がすべり淵に落ちてしまった。ここは要注意
である。10分程でF4 10mに出会う。直登はむずかしいので、右岸を最少限に巻く。
5分程でゆうに50mはあるだろうナメが終わるが、その地点に幅3m、高さ4~5mの
スノーブリッジを発見。冬期の豪雪がしのばれる思いである。スノーブリッジをあと
にS字型のF5 15m 2段の滝になる。ホールドがしっかりしているので直登できた。
F6 3mを過ぎると15m位のナメが現われ、その先に淵があり、右岸をトラバースす
る。このあたりから傾斜がゆるくなって滝らしい滝が見あたらなくなり、いたる所に
残雪を見ることができる。時計を見ると7:00。地図にて現在地点を確認して遡行を
続ける。50分程平凡な沢が続く。7:55 F7 15m 3段の階段状の滝を直登。15m程
のナメを過ぎると傾斜がさらにわるくなり、かなりの残雪を見る。ここで左俣と右俣
にわかれている。30m程のナメのあとに長さ50m、幅10m、高さ7m程の規模をもつ
スノーブリッジを見る。しずくがポタポタと落ち、ひんやりとして、まるで大型の冷
蔵庫にとちこめられた感じである。真夏というのにこれ程の残雪を見ることができ
るとはうそのようである。このあたりから傾斜が急にきつくなってくる。正面に小規模
な岩場が見えてくる。ここまでくると沢も終わりである。水もかなり少なく、たまに
2~3mの滝らしいものに出会う。水もかれ、10時10分やぶごぎ開始。15分程で登
山道。三ツ岩、窓明の下部分岐に出る。ちょうど待ち合わせの場所であった。

(記・菅野喜吉)